

Hot Voice

せきね敏伸 県政報告

2019.4.1
No. 16



新しい県民計画特集号

ご挨拶

日頃私の活動に対しご理解とお力添えを頂いておりますことに心から御礼申し上げます。

さて、先日の県議会において岩手県の10年間の次の総合計画「いわて県民計画」を審議する特別委員会が行われました。

私は会派（改革いわて）を代表して、知事等に総括質疑を致しましたので、その概要について内容を抜粋してお知らせ致します。

今年の秋には、県議会議員選挙も予定されております。皆様方には変わらぬご指導とご鞭撻をお願い申し上げます、ご挨拶と致します。

感謝

めざす
元気な
岩手づくり

次期総合計画特別委員会総括質疑より 2019.3.1

問 幸福をキーワードとした新しい県民計画に示された「社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）」の視点を踏まえ、岩手県の「持続可能性」にどのように取り組んでいくのか。

答（知事） 新しい県民計画の基本目標の「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」の実現には、社会的に弱い立場の方々が孤立しないよう、社会的包摂の観点にたった取り組みを進めることが重要である。

そのことから「子どもの貧困対策」や「地域コミュニティづくり」などの施策を実現するとともに、障がい者をはじめとした多様な方々の参画・活躍の方向を盛り込んでいる。「誰一人として取り残さない」という理念のもと、経済・社会・環境の課題を総合的に解決する取り組みを岩手から広げていきたい。

問 人口減少下のこの時期に新しい視点の計画に着手した意図は何か。

答（知事） 東京の一極集中是正が求められるこの時期には、地方の人々の暮らしや仕事を起点とする政策が必要であり、また、経済的な尺度では測ることができない心の豊かさに着目しながら、岩手の強みを生かしていくことが重要である。

近年、世界の国々や国際機関において、人々の幸福度に着目した研究と、その政策への活用が進められており、それらを背景として、10の政策分野のもと、50の政策項目を掲げて今回、議会に提案している。